

薬剤耐性菌とは？

「薬剤耐性菌」とは、抗菌薬が効かない、もしくは効きにくい細菌です。私たちの体の中では無数の細菌(常在菌)がバランスを保ち健康環境を守っています。

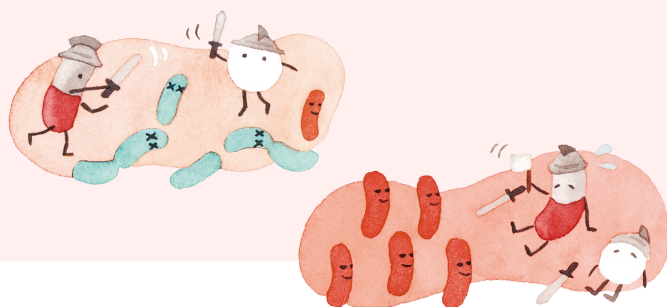
抗菌薬を飲むと、体の中の細菌のバランスが崩れ、薬剤耐性菌が増えやすくなります。また一部の菌が、抗菌薬から逃れるために薬剤耐性菌に変化してしまうことがあります。

薬剤耐性菌を増やさないために

抗菌薬が必要な時以外は飲まないようにすることが重要です。

多くの鼻副鼻腔炎はウイルスの感染なので抗菌薬は効きません。

また、抗菌薬が必要と判断され処方された時は、指示されたのみ方でのみ切ってください。抗菌薬を中途半端に使用してしまうと、菌が死にきらずに耐性化することがあります。



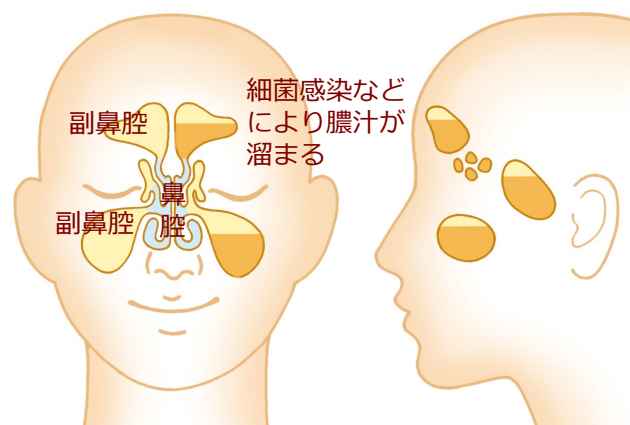
患者のみなさまへ

急性鼻副鼻腔炎

ウイルスや細菌の感染で副鼻腔の粘膜が荒れたり腫れたりするのが副鼻腔炎です



急性鼻副鼻腔炎

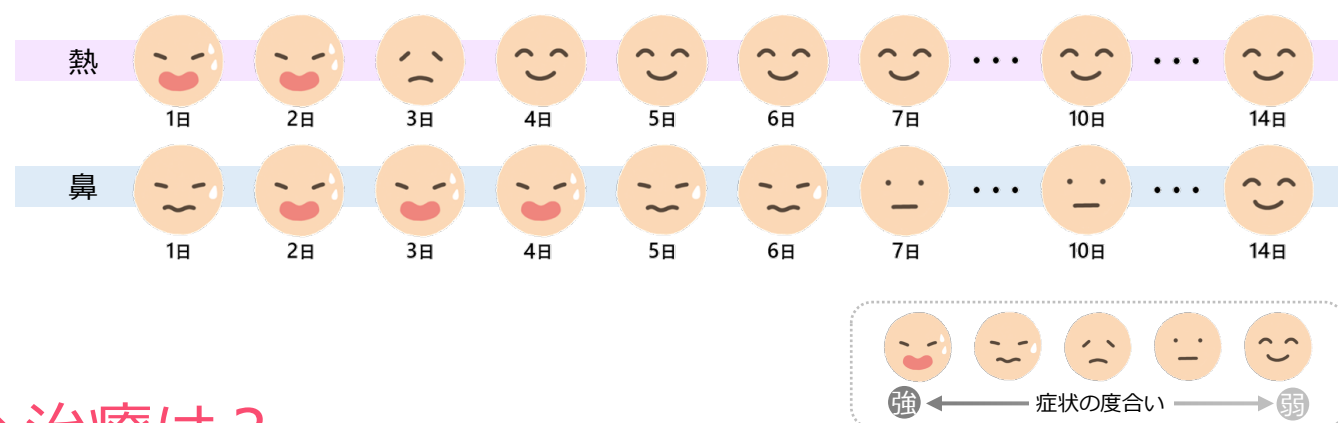


副鼻腔は顔の骨の中にある空洞で、鼻とつながって空気の温度や湿度を調整しています。
ウイルスや細菌の感染で炎症がおこり、鼻の粘膜が腫れて、発熱、鼻水や鼻づまりなどの症状がでるのを鼻副鼻腔炎といいます。

◆これからの症状は？

- ・熱や体のだるさは3日目くらいまで続きますが、その後よくなります。
- ・鼻の症状は、2-3週間かけて徐々に治っていきます。

一般的な症状の強さの変化



◆治療は？

- ・ゆっくり休んで、栄養をとみましょう。
- ・熱や汗で水分が奪われます。しっかりと水分をとみましょう。
- ・自然に治ることも多く、基本的に抗菌薬は不要と言われていますが、長引く場合、症状がひどい時は抗菌薬が処方されることがあります。
- ・抗菌薬を処方された場合は、用法用量を守ってのみ切りましょう。
- ・鼻水、鼻づまり、頭痛、顔の痛みがひどい時は、症状を抑える薬をのむと楽になります。
- ・経過が思わしくない場合は、再度受診してください。

再度受診が必要な場合

最初は自然に治っていく鼻副鼻腔炎に見えても、後から症状が重くなって別の薬が必要になることもあります。下記の症状に当てはまる時は、もう一度受診しましょう。

- ☐ 目の下や額のあたりの痛みが強くなってきた
- ☐ 38℃前後の熱が4日以上続く
- ☐ いったん治りかけた症状が再度悪化した
- ☐ 7-10日経っても鼻水が減らない

【抗菌薬とは】

抗生物質といわれることもあります。
病気の原因となる細菌を殺したり増や差なくする薬です。

【ウイルスに抗菌薬は効きません】

- ▶ 抗菌薬は細菌をやっつけるものです。
そのため、ウイルスの感染症には抗菌薬は効きません。
- ・不必要に抗菌薬を使うと、
抗菌薬が効かない細菌(薬剤耐性菌)ができる可能性があります。薬剤耐性菌ができると今後、抗菌薬が必要な病気の時に使える抗菌薬が少なくなり予防や治療がうまくいかなることがあります。
- ・抗菌薬をのむと、下痢、吐き気や発疹などの副作用がでることがあります。



* 免疫を低下させる薬をのんでいる方、肺や心臓に病気がある方は違った経過になることもあります。
主治医の先生とよくご相談ください。